

武力で平和はつukれない 2・26世界の平和を願う市民のつどい in 岩手 【アピール】

私たちは、2003年アメリカ・イギリスのイラク侵略戦争開始時から、この戦争に反対し続け、日本政府がイラク戦争を支持し、自衛隊を派遣したことにも反対してきました。そして、世界の人々とも連帯しながら「世界の平和を願う市民のつどい in 岩手」を毎年開催し、今年で9回目になりました。

しかし、平和を願う私たちの声とは裏腹に、イラク戦争は泥沼化し、いまだに米軍による占領が続いています。この8年間で数十万人とも百万人とも言われる市民が犠牲になり、その多くは戦争に関係のない子どもや女性やお年寄りです。米軍が使用した劣化ウラン弾による放射能被害やクラスター爆弾による後遺症なども深刻です。

また、イラク戦争の1年前に始まったアフガニスタン戦争でも、「テロとの戦いだ」としてアメリカを中核にした多国籍部隊が占拠することで戦火はますます広がっています。イラクやアフガニスタンからの米軍の帰還兵は、「テロリストを封じ込めるところか、アメリカの行為こそがテロ行為だ」と証言しています。武力で「テロ」を封じ込めることはできないのです。占領を終わらせることこそが、戦争を終わらせる道ではないでしょうか。

かたや日本の平和に目を向けるとき、日本政府は「日米同盟を深化・発展させる」として、ますますアメリカへの軍事協力を強めています。世界では米軍再編の中で基地の縮小がすすむ中、日本は今まったく逆の道をすすもうとしています。50年にもわたる日米安保条約により、戦後65年もの長い間米軍基地は駐留し続け、しかも、基地の74%が沖縄に集中し、騒音や墜落、米兵による犯罪など沖縄は常に危険にさらされ、苦しみを強いられてきました。しかも、沖縄の海兵隊という部隊はアメリカの戦争ではいつも先陣をきる「殴りこみ部隊」になっており、イラクやアフガニスタンへも出撃をしています。

私たちの税金は、この米軍基地維持のために使われ、手厚い「思いやり予算」はアメリカが世界で展開する戦争への協力になっていることは、平和憲法9条をもつ国として大きな矛盾ではないでしょうか。

武器があること、日米安保条約に基づく米軍基地があることが他国からの攻撃を止める「抑止力」になるという考えは、本日の集会の沖縄からの証言からも危険な道であることがわかりました。武力で平和はつukれないのです。

平和を実現するための第一歩は、沖縄県民と力を合わせて世界への軍事侵略の前線になっている沖縄米軍基地は「いらない！」の声をあげること、普天間基地の辺野古移設を止めさせ、沖縄の人たちの犠牲の上にたつ安全保障の見直しから始めるべきではないでしょうか。

日本には、恒久平和を求める平和憲法9条があります。この9条の精神を世界に広め、平和な世界をめざして、みんなで力を合わせていっしょに行動しましょう！

2011年2月26日 世界の平和を願う市民のつどい in 岩手 参加者一同